



2025.09

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

2025年度外国人による 徳島県日本語弁論大会



令和7年7月20日（日）、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）にて第36回目の「2025年度外国人による日本語弁論大会」を、徳島県及び（公財）徳島県国際交流協会の主催により開催しました。

今回の大会には7か国1地域から14名の方が出場しました。それぞれが日本語で、違いを認め合い学び合うことの大切さや、人とのつながりの尊さ、そして自らの夢について、熱い思いを語ってくれました。

暑い中お越しくくださった皆さま、ありがとうございました！

最優秀賞に輝いたのは、中国ご出身のカク エイナンさん、徳島県議会国際交流議員連盟会長賞を受賞したのはベトナムご出身のカオ ゴック フン ズンさんです。

本大会の報告は、すでに当協会のホームページで掲載しております。ぜひご覧ください。

違いは怖くない ー異文化共生への道ー

カク エイナン（中国）



日本に留学する前、親戚や、なんと母までもがこう言いました。「行かないほうがいいよ。日本人は冷たくて怖いから。」その時、「“怖い”というイメージは、一体どこから来るのだろうか？」と考え始めました。実際に日本人と話したことも、出会ったこともないのに、どうしてそんな印象を持つてしまうのでしょうか。考えてみると、それはテレビのニュースや、噂話から無意識に植えつけられたものでした。「日本は地震が多いし、人も冷たいから、そこに行ってもきっと幸せにはなれないよ。」そんな言葉を聞いた時に、不安になる一方で、「本当にそうなのか、自分の目で確かめたい」という気持ちが強くなっていきました。そして、私は日本への留学を決意しました。

来日後、思いがけず、日本人の優しさに触れることができました。ある日、寮で洗濯機が壊れて、下の階に住むアフリカからの留学生が私の部屋をたずねてきて、「すみません、洗濯していますか？水が私の部屋に漏れています。」と、言いました。私はどうすればいいのかわからず、ただ「本当に申し訳ございません」と繰り返すことしかできませんでした。翌日、学校からメールが届き、すぐに修理に来てくれるという内容でした。まるで、火の中でイライラしていた私に、優しく水をかけてくれたようなありがたさが心に染み込みました。この体験をきっかけに、日本人に対するイメージは一気に変わりました。家族にこの話を伝えると、彼らも少しずつ、日本人に対する印象を改めるようになりました。

この出来事を通して改めて感じたのは、ステレオタイプの恐ろしさです。実は、日本でも中国人に対して、あまり良くない印象があると聞きました。

「うるさい」「声が大きい」「ルールを守らない」など、メディアに映る一面だけで判断されがちです。日本で外出すると、「日本人ですか？韓国人ですか？」と聞かれることがあります。「中国人です」と答えると、「あまり中国人っぽくないですね」と驚かれることもあります。そのとき、ふと考えました。「中国人っぽくない」とは、どういう意味だろう？もしかすると、私は彼らの中にある「中国人像」に当て

はまっていないだけではないか？しかし、それは中国人が全て同じ性格や行動をするわけではないという、当たり前的事实を見逃している証拠です。本当は、中国にも優しい人、誠実な人、親切な人がたくさんいます。

このように、私たちは「日本人はこうだ」「中国人はこうだ」と、狭い視野で一面的に相手を見て、決めつけてしまうことがあります。でも、実際に会って、話して、接してみないと、本当の姿はわかりません。むしろ、「見たことがないから怖い」「分からないから化け物のように思う」——そんな感情のほうが、ずっと恐ろしいのではないのでしょうか。この「怖さ」こそが、偏見や差別、誤解を生む大きな原因だと思います。

では、私たちはどうすればいいのでしょうか？私は大学院に入ってから、「日本語教育とは、言語だけでなく文化や価値観の違いに気づくこと」だと学びました。異なる文化背景や母語を持つ学習者に日本語を教えるには、相手の視点に立つことがとても重要です。そして、日常のコミュニケーションでも同じです。たとえ文化に違いがあっても、それを否定せず、尊重する姿勢が人間として最も美しく、尊い行動ではないのでしょうか？また、私たち自身も、「ステレオタイプ」に冗談のようにのっかるのをやめ、相手に対する印象が固定されていないか、自分自身に問いかけていく必要があると感じています。

どんな国の文化にも、どんな人にも、優れている部分もあれば、欠点もあります。でも、それを一方的にラベルを貼って決めつけるのではなく、国と国、人と人が向き合い、違いを認め合い、学び合うこと、その積み重ねこそが、平和で輝かしい世界を作る第一歩なのだと、私は信じています。

ご清聴ありがとうございました。

(原文ママ)

夏休み子ども日本語教室（サマースクール）

講師：JTMとくしま日本語ネットワークの会員の皆様
 日時：7月22日（火）から8月2日（土）までの8日間 10：30～12：00
 開催場所：TOPIA会議室

今年のサマースクールには、中国、ネパール、フィリピン、ペルー、モンゴル、ガーナ、パキスタン、ベトナム、日本、計9か国にルーツを持つ小学生9名、中学生10名、高校生1名の、合計20名が参加しました。色とりどりの背景を持つ子どもたちが一つの教室に集まり、笑顔と好奇心に満ちた夏が始まりました。

教室での活動は、まず1時間の個別学習からスタートします。日本語の勉強や夏休みの宿題など、それぞれの目標に合わせた内容に取り組み、講師が丁寧にサポートしました。

そのあとは、全員で30分の全体学習。日本昔ばなしをみんなで楽しんだり、言葉送りゲームで盛り上がったりと、学びの中にも笑いや発見がたくさんありました。

毎日の1分間スピーチでは、子どもたちが自分の夢や大切にしていることを発表しました。最初は少し緊張していた子も、みんなからの応援を受け、話せるようになっていきました。

7月26日には、当協会スタッフによる日本の学校生活についての簡単なガイダンスも行いました。授業や行事の仕組み、学校でのルールなどを知ることで、今後の学校生活や進路を考えるうえでの一助になったことと思います。

8日間という短い時間でしたが、子どもたちは同じような経験をしている仲間とつながり、お互いに励まし合いながら成長していきました。新しい学期も、それぞれが自分らしく、前向きに学び続けてくれることを願っています。

最後に、今年も子どもたちの学びと笑顔を支えてくださったJTMとくしま日本語ネットワークの皆様へ、心から感謝申し上げます。



令和7年度 後期日本語教室

TOPIAで日本語を勉強しませんか

開始日：9月19日（金）～

※曜日により内容が異なりますので、詳細は当協会のホームページにてご確認ください。

時間：10:30～12:00

場所：TOPIA会議室

受講料：無料

*初級Ⅱ・Ⅲのみ9月19日（金）から開始します。
 ほかのクラスは10月より開催。





あらかわ連

8月14日（木）、阿波おどり交流事業「あらかわ連」を実施しました。「あらかわ連」は、国籍・人種・宗教などの違いを超えて「争いのない平和な世界」という理念のもと、徳島県在住の外国人たちが一緒に阿波おどりを楽しむ国際交流連です。

今年は、中国、ブルキナファソ、ベトナム、カナダをはじめとする11か国から多彩な参加者が集まり、有名連「のんき連」のご協力のもと、総勢約100名で演舞場に繰り出しました。

当日は天候にも恵まれ、参加者たちは「世界は一つ、争われん」という大きな掛け声をかけながら、二拍子のリズムに合わせて元気いっぱい踊りを披露しました。初めて阿波おどりに挑戦する人も、経験のある人も、「のんき連」の皆さんの力強いリードに支えられ、会場一体となって阿波おどりを楽しむことができました。

この交流事業は、国籍や文化の違いを越えて一つの踊りを共有することで、互いを理解し合い、世界の平和を願う思いを形にする大切な機会となっています。参加者からは「徳島の伝統的なイベントに参加できて楽しかった」などの声が寄せられ、まさに笑顔あふれるひとときとなりました。

本事業にご協力いただいた「のんき連」をはじめ、関係者の皆様、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。来年度も皆様と共に再び演舞場に繰り出し、阿波おどりを通じて世界に平和と笑顔を広げられることを楽しみにしております。



徳島の伝統、世界へ発信！ あらかわ連の万博舞台レポート

令和7年5月3日（土）、大阪・関西万博の会場にて、徳島の伝統芸能である阿波おどりを披露しました。ここで、参加されたジュリー ブルツさんの感想をご紹介します。

ジュリー ブルツ

昨年11月、TOPIAから大阪・関西万博で阿波おどりの踊り手を募集しているという知らせを見たとき、すぐに応募しました。2019年にASTYで初めて阿波おどりを踊って以来、8月の祭りにも踊り手や太鼓奏者として何度か参加しており、すでに阿波おどりに馴染みがありました。しかし今回は、私の愛する徳島を代表する一人として国際舞台で活躍できる一生に一度の機会であり、絶対に逃すわけにはいきませんでした。

1月に練習が始まりました。連は14か国から

集まった28人で構成され、阿波おどりの経験もさまざまでした。共通点はただ一つ、「世界に阿波おどりの楽しさを伝えたい」という思いでした。指導者の温かいご指導と、阿波おどり保存協会の皆さんが奏でるお囃子に包まれながら、練習を重ねました。時には戸惑うこともありましたが、皆



で力を合わせて頑張り、とても楽しい経験となりました。

そして迎えた5月3日の本番。私たちは午前6時半に徳島市を出発し、万博へ向かいました。

今回、私は初めて「女踊り」を踊ったのですが、着替えの時間になったとき、衣装袋の中にある半分のパーツが何のためにあるのか見当もつきませんでした。幸い、ベテランの着付けの方々が初心者私を手伝ってくださり、鏡に映った自分の姿に思わず見惚れてしまいました。その衣装を身にまとった自分はとてもかわいらしく感じると同時に、徳島のシンボルを身にまとい、第二の故郷である徳島の素晴らしい文化を世界に発信できることに、強い誇りと興奮を覚えました。

舞台へ歩いていると、万博を訪れている方々に呼び止められ、質問をされたり、一緒に阿波おどりのポーズで写真を撮ったりして、皆が笑顔になりました。

いよいよ本番の時間。私たちが到着すると、有名な新聞社やテレビ局のカメラがずらりと並び、私たちの姿を捉えようとしていました。ステージの周りには年齢も人種もさまざまな人々が集まり、目を輝かせて私たちを見つめていました。そのときは本当に緊張し、胸がドキドキして手汗が止まりませんでした。しかし、音楽が始まると「みんな笑顔で楽しもう！」という指導者の言葉を思い出し、その通りにしようと決めました。

特に光栄だったのは、他の5人の踊り手と一緒にスロー踊りを演じたことです。スロー踊りはその名の通り、いつもよりゆっくりと踊り、数秒間制止することが求められます。特に難しかったのは、優雅で自信に満ちているように見せながら、顔が崩れないようにつま先で全体重のバランスをとることでした。しかし、多くの視線が私たちに向けられているのを感じるのはスリリングでもありました。心配をよそに、私

たちは無事に曲を完成させ、観客の万雷の拍手に包まれました。

そして最後に最大のパフォーマンス、グランドフィナーレの時がやってきました。700人の踊り手と鳴り物の人たち、そして何千人もの観客が一つの巨大な輪となって踊りました。それは、この日のテーマである「ダンスを通じて世界をひとつに」を完璧に体现するものでした。その数分間で、私は本当に皆とつながっている、何か大きなものの一部であると感じました。同じ文化を持っている必要も、同じ言語を話す必要もありません。私たちは一緒に動き、音楽のリズムを骨の髄まで感じ、他の人とこの経験を分かち合う喜びを味わいました。

この日は私にとって大切な思い出の一つとなり、このような素晴らしい経験を与えてくださったイベント関係者、特にTOPIAとあらそわれんの皆さんに感謝しています。

皆さんも次回はぜひ参加してみませんか？



**世界はひとつ！
あらそわれん！**



令和7年度 地域日本語支援ボランティア養成講座

あなたのまわりに暮らす外国人の方々に、日本語を使つての生活をより安心・快適に送っていただけよう、日本語支援をしてみませんか。

この講座では、日本語支援の基礎や外国人とのコミュニケーションのポイントを学びながら、実際に日本語学習者と交流・支援を行う体験もできます。

日 時：9月25日（木）～11月20日（木）19：00～20：30

会 場：オンライン開催

実地研修：三好町（11月9日 13:00～17:00） 神山町（11月16日 10:00～15:00）

参加費： 無料 ♡ 皆様のご参加をお待ちしております！ 詳細はTOPIAホームページをご覧ください。



新規JETプログラム参加者へオリエンテーション開催

令和7年8月21日（木）と22日（金）の2日間、徳島県に新たに赴任した26名のJETプログラム参加者を対象にオリエンテーションを開催しました。

1日目は、生活オリエンテーション、日本語教室、防災講座、先輩JETによる教え方のアドバイスなど、多岐にわたるプログラムを実施しました。参加者は徳島での生活に必要な情報や知識を学びながら、交流を深めました。

2日目は、前日に学習した防災知識を実践に移すため、防災センターを訪問。起震体験や暴風体験を通じて、防災意識を一層高めました。

その後、徳島県の伝統文化に触れる機会として「藍の館」で藍染め体験を行い、参加者それぞれが世界に一つだけの作品を完成させました。

今回のオリエンテーションを通じて、参加者は徳島での生活に必要な知識やスキルを身につけるとともに、地域文化への理解を深める貴重な時間となりました。オリエンテーション期間中に築かれた仲間との繋がりは、今後の活動や徳島での生活において大きな支えとなることでしょう。今後は、それぞれの配属先で存分に力を発揮し、活躍していただきたいと思ひます。



ケニアの子ども達！ようこそ徳島へ

NPO法人「アフリカ児童教育基金の会（ACEF）」は、今夏、ケニアで運営するテンリ小・中学校の生徒20名と校長・教員らを日本に招聘しました。そのプログラムの一環として、一行は8月12日（火）、当協会を表敬訪問してくださいました。

ACEFは、1980年代のアフリカ大干ばつの際、栄養失調の子どもたちを救うことを目的に発足しました。1991年からはケニアで、「元気な子どもには教育を、病気の子供には薬を、枯れた大地には緑を」をモットーに、多岐にわたる活動を続けています。

当日は、ACEF小椋代表、塩尻前現地代表、そして校長先生から活動内容のご説明やご挨拶がありました。その後、生徒の皆さんが趣味や将来の夢を紹介し、キクユ族の伝統的なダンスを披露。さらに、徳島在住のケニア人親子からの温かいメッセージとエールも届けられました。

ACEFの長年にわたる献身的な活動と、それを支える情熱に心から敬意を表すとともに、生徒の皆さんが夢を叶え、将来ケニアのリーダーとして活躍されることを願ってやみません。

その夜、ケニアでも阿波おどりを踊った経験のある彼らは、本場徳島で自作の浴衣を身にまとい、舞に繰り出し、日本でのかけがえのない思い出をまたひとつ増やしました。



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

～2025年度 JICA海外協力隊秋募集～ 9月14日(日)募集説明会開催決定！！

○JICA海外協力隊秋募集 2025年9月12日(金)～10月14日(火)正午まで

JICA海外協力隊の秋募集が9月12日(金)から始まります。これに伴い9月14日(日)に徳島県国際交流協会(TOPIA)で14時～16時まで募集説明会を実施します。「協力隊に参加したい」と考えている方はもちろんのこと、「外国の話を聞きたい」「徳島県からどんな人が外国にっているのだろう」といった興味関心を持ってくださっている方々など、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。また、「自分が活躍できる職種はあるのか」「語学力のことについて知りたい」など個別の質問にもお答えできるように個別相談ブースも設置し、お気軽にご質問いただける環境を準備させていただきます。

徳島県から世界に飛び立ち、様々な経験をしてまた徳島に戻り地域を明るく元気にできるグローバル人材を目指して。

説明会にはどなたでもご参加いただけますので是非お気軽にお越しくださいませ。(事前予約制・申込QRコードは以下に添付)

JICA海外協力隊の体験談を聞くことができます！

【高知県】 9/6 (土) 11:00-13:00 会場:高知県国際交流協会 ラウンジ (KJA)	【愛媛県】 9/13 (土) 10:00-12:00 会場:愛媛県国際交流協会 (EPC)	参加無料 入退場自由 当日参加OK!
【徳島県】 9/14 (日) 14:00-16:00 会場:徳島県国際交流協会 (TOPIA)	【香川県】 9/28 (日) 14:00-16:00 会場:香川県国際交流協会 (アイパル香川)	

詳しい情報につきましては、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構(JICA)四国センター
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
電話番号:087-821-8824 ファックス:087-822-8870 メール:jicaskic@jica.go.jp

お申込みはこちらから

JICA四国 イベント



～2025年度サマーキャンプ報告～

○徳島県青年海外協力協会(協力隊OB・OG)主催のサマーキャンプに参加しました。

8月1日～5日、徳島県上勝町で福島県・熊本県・徳島県の高校生を集めたキャンプが実施されました。このキャンプは東日本大震災がきっかけで福島県の高校生たちに様々な経験をしてほしいという思いから始まりました。サマーキャンプは今年度で11回目の開催となり、今年度は計29名の高校生が参加しました。

JICA四国所長、JICA徳島デスク、JICA研修員(留学生)もプログラムの一部に参加し、高校生に向けて「JICA」について説明させていただいたり、研修員からは「母国クイズ」や「日本に来て驚いたこと」などの話をし、その後、高校生とのディスカッションを行いました。高校生も研修員もお互いのことを「知りたい」「知ろうとする姿」があり、このキャンプを通じて異文化理解や多文化共生について皆で学べる機会になったと思います。キャンプ中は協力隊経験者が活動していた現地のご飯を再現してふるまっていただけたりと、異文化に触れる機会が多々ありました。皆様貴重な機会をありがとうございました。



イベント予定や過去のイベントについての詳細は、JICA四国Facebook及びInstagramをご覧ください。



JICA四国 Instagram



JICA四国 Facebook



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク: 徳島県国際交流協会(TOPIA)内/徳島県国際協力推進員 服部

TEL: 088-656-3303 Email: jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP: <https://www.jica.go.jp/shikoku/index.htm>

JICA海外協力隊の
個別相談受付中



「とくしま外国人支援ボランティア会員」 *募集中*

徳島県には約95か国及び地域、8,907人（県人口の77人に1人）の外国人の方が住んでいます。加速する少子高齢化と労働者の不足により、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

徳島県外国人総合相談窓口



徳島県で生活する外国人のみなさんにとって、暮らしやすい地域社会であることを目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、ベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に來所いただくか、お電話下さい。

開所時間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

(1) 多言語(英語・中国語・ベトナム語)相談員の配置

(2) 電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】21言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

(3) 映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】11言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語 ⑨フランス語 ⑩ネパール語
- ⑪ヒンディー語

(4) 対面式通訳機(ポケット)の導入(74か国語)

(5) 多言語翻訳アプリ(ボイストラ)の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相談料：無料（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：年末年始

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>